

New Kyoto Town House 2

耐力壁計算を前提とした現在の木造住宅のシステムは、うなぎの寝床といわれる京都の細長い敷地になじみにくい。長い年月を経て、最低限の採光・通風・アプローチがとれる程度にまで敷地の幅が細分化されている一方で、現在、間口方向を開放するには鉄骨造あるいは特殊な木造ラーメン構造とするしかない。

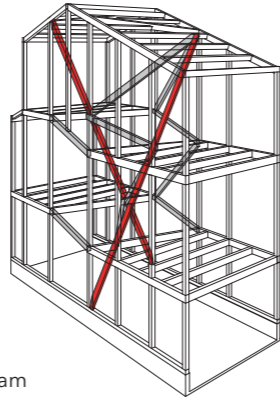
そこで木造を採用して構造体と間仕切り壁を一体化させ、異なる階をつなぐ最低限の面である階段に耐力を負担させ、ブレースを1階から3階までの建物の骨格全体につばる2本の材にまで還元した。この2本のブレースは又、各階のスラブ端の梁を支える柱でもあり、ブレースの3次元空間内での動きが、スラブ端部の平面方向の動きに反映される。

南北端の開口、南北でスキップするスラブ、階段スラブと2本のブレース柱のみで構成された空間は、床と柱を空間の要素とする木造を継承、発展したものである。グリッドを分割した短冊状の敷地形状がこれからも生き続けるであろう京都における、木造版ドミノのようなプロトタイプのプロ案である。

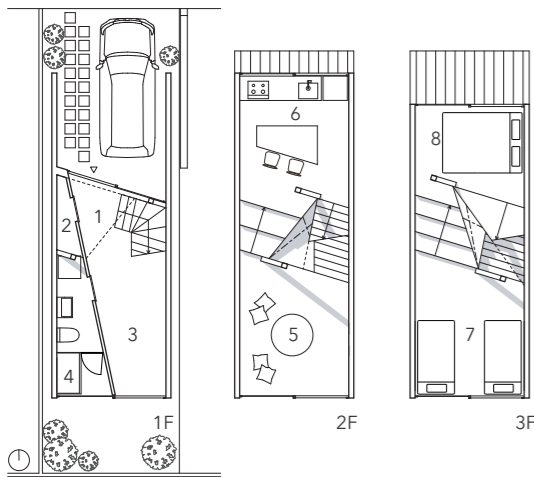
use: housing| site: Kyoto, Japan| site area: 52.93m²| building area: 30.00m²| total floor area: 84.86 m²| building scale: 3 stories| structure system: wood| structural engineer: Takashi Manda (Takashi Manda Structural Design)| complete: 2014



site plan 1: 2000

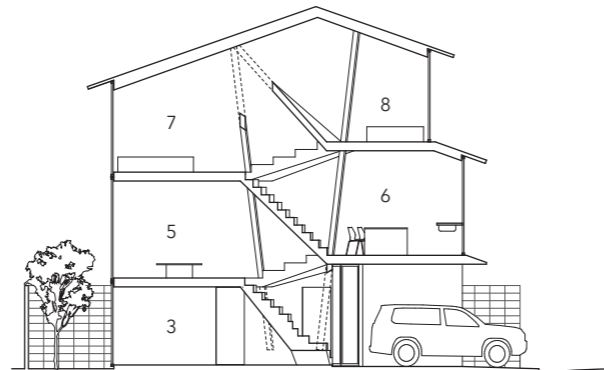


structure diagram

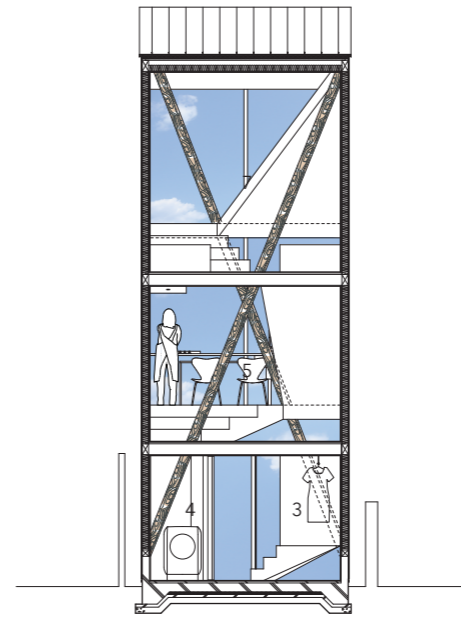


plan 1: 200

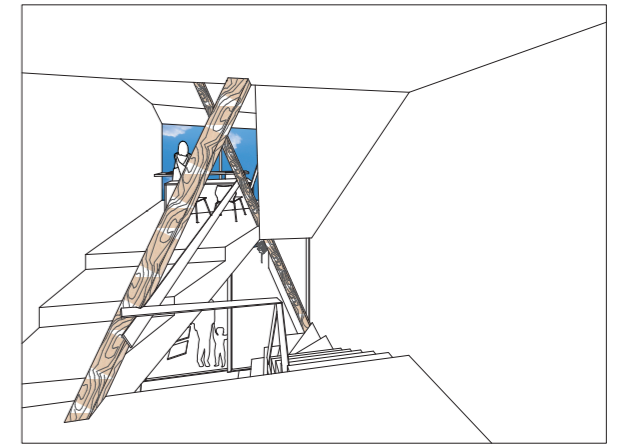
- 1. entrance
- 2. storage
- 3. spare room
- 4. bath room
- 5. livingroom
- 6. kitchen
- 7. children's room
- 8. bed room



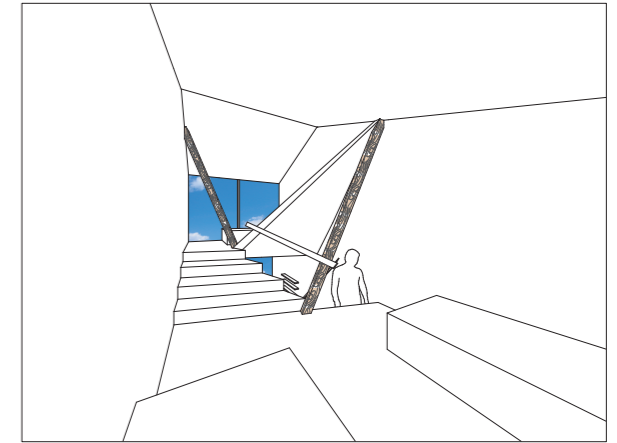
section 1: 200



sectional detail 1: 100



view from livingroom



view from children's room



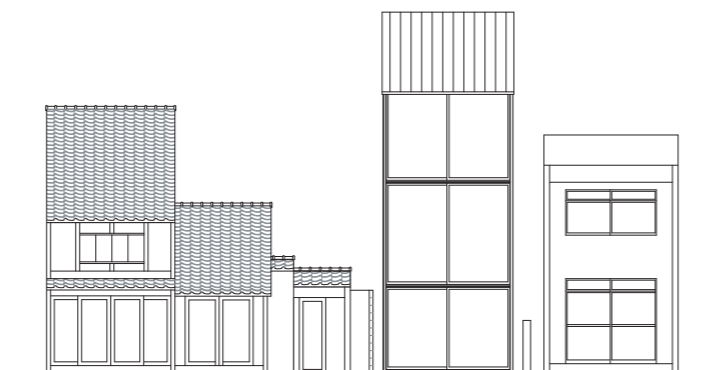
model photo



view from livingroom



north elevation 1: 200



south elevation 1: 200



view from kitchen



view from entrance toward upper floor



view from children's room